

◎横須賀市学力向上推進プランについて

1 横須賀市学力向上推進プランの概要

本プランでは、「学力」を「資質・能力」ベースの考え方にに基づき「児童生徒一人一人がよりよく生きていくために必要な力」として総合的に捉え直しました。また、横須賀が目指す教育の姿「あなたが好き 私が好き 横須賀が好き と誇れる人づくり」の実現を目指して、児童生徒が将来の予測困難な社会をたくましく生き抜き、持続可能な社会の担い手として成長できるよう努めることとしています。そして、「児童生徒の学びをより豊かにする」という本プランの理念をわかりやすく伝えるため、「よこすか豊かな学びづくり推進プラン」を通称として用いています。

また、教科等の学びを大切にしながら、学び合うことよき、挑戦を続ける力、共感する力などにも目を向けます。校種を超えたつながりを意識し、一人一人の発達や特性に応じて支え、学校・家庭・地域が三位一体となつて、学ぶ楽しさやつくりだす喜びを実感できる新たな学びの在り方を探究します。

なお、全国調査等で得られる教科調査の結果については今後も引き続き着目し、認知的な能力と非認知的な能力の両面を一体的に捉え、児童生徒の資質・能力の育成状況等を多角的・多面的に分析しながら取り組みます。

2 横須賀市学力向上推進プランの目標および目標指標

本プランの目標は、次の4つです。

- ・目標1 共に学び合う集団をつくる
- ・目標2 粘り強く学ぶ力を育てる
- ・目標3 社会につながる力を育てる
- ・目標4 生活や学びの土台となる力を育てる

この「4つの目標」の到達度を測り、適切に進捗管理を行うために、全市的な質問調査（横須賀市児童生徒学習状況等質問調査（以下、「市質問調査」という。))を行い、児童生徒の学びに対する意識や学級の人間関係、社会とのつながり、生活習慣に関することなどを把握します。調査対象は、小学校2～5年生、中学校1～2年生です。そして、全国調査における教科調査の結果と合わせて、目標ごとに多角的・多面的に分析します。複数のデータを総合的に捉え、認知的な能力と非認知的な能力のバランスのよい育成を目指します。

（目標１）共に学び合う集団をつくる

「共に学び合う集団」とは、多様な仲間を大切な存在として認め合い、協力しながら様々な課題に向き合っていく集団です。学び合いを通して、自分のよさや可能性に気付き、一人一人が自分らしさを伸ばしていけることを目指します。そのために教師は、仲間や教師と一緒に学ぶことのよさを児童生徒が実感できるよう、主体的・対話的に学べる授業づくりを工夫し、学びに向かう気持ちを育てます。

・目標指標

【成果指標（市質問調査による分析）】

児童生徒が、授業や学校生活において安心して自分の意見を言えたり、思いを受け止めてもらえたりしているという実感があるかを、市質問調査における次の設問の肯定回答率によって測ります。

「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。」

【活動指標（全国調査による分析）】

共に学び合う集団をつくることに関して分析するために、全国調査における国語科の「A 話すこと・聞くこと」の問題の正答率（02 問題別調査結果）に着目し、学校全体で具体的な指導改善のための手立てを講じます。

（目標２）粘り強く学ぶ力を育てる

「粘り強く学ぶ力」を育てるには、難しい課題（児童生徒の力を今より一歩伸ばす挑戦的な課題）に対してもあきらめず工夫して解決しようとする経験を積めるよう、指導計画を整えることが重要です。探究的・協働的な活動を通して、学びを振り返り、見通しを立て、よりよいものを目指して試行錯誤するなど、学びを調整する場面を単元などに位置付けます。学習過程での言葉かけやコメント、そして「がんばって解決できた」という実感は意欲を高めます。

・目標指標

【成果指標（市質問調査による分析）】

児童生徒に、簡単にあきらめずに努力し続けたり、失敗をしてももう一度挑戦したり、自分なりに工夫したりしながら粘り強く学んでいく力が身に付いているかを市質問調査における次の設問によって測ります。

「分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。」

なお、この目標の達成状況については、これまでは教科調査における記述式問題の無回答率から分析してきました。記述式の問題を解くためには、途中で考えが行き詰まったり、答えが一つに定まらなかったりしやすい分、「最後まで取り組む」「やり方を変えて試す」「見直して修正する」などの力が発揮されやすいと考えたからです。しかし、無回答にはさまざまな要因があることが明らかになり、児童生徒の「粘り強く学ぶ力」を分析するには、教科調査の結果のみでは十分ではないという結論に至りました。

（目標3）社会とつながる力を育てる

ここで言う「社会」とは、児童生徒の身の回りの社会だけでなく、これから生きていく未来の社会も含みます。学びは学校の中で完結するのではなく、日常生活や地域の活動につながり、学んだことが役に立つ実感を伴うことが大切です。情報技術の進展と情報過多の時代においては、情報の信頼性を見極めて活用し、自分の考えを整理して発信する力が求められます。さらに、地域の人・場所・文化とふれあう体験を通して課題を見だし、主体的に解決に取り組む学びを充実させます。これらの力は学校・家庭・地域が連携して育み、地域資源を生かした学びを目指します。

・目標指標

【成果指標（市質問調査による分析）】

児童生徒が情報の信頼性や必要性を見極め、自分の考えを分かりやすく発信する力と、その情報を実際に社会とつなげる力を身に付けているかについては、市質問調査における次の設問によって測ります。

「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」

【活動指標（全国調査による分析）】

児童生徒の社会とつながる力を情報の取扱いなどの視点から分析するために、全国調査における算数・数学科の「D データの活用」の問題の正答率（02 問題別調査結果）に着目し、学校全体で具体的な指導改善のための手立てを講じます。

(目標4) 生活や学びの土台となる力を育てる

「生活や学びの土台となる力」を育てるには、まず子どもの言葉を受け止め、気持ちに寄り添って共感しながら励ます関わりが大切です。日々のやり取りが自尊心を高め、安心して過ごす土台になります。また、「子どもの成長をみんなで支える」という思いを大人同士で共有し、学校・家庭・地域がつながって協力することが欠かせません。さまざまな体験を通して、実感を伴う学びや生活の価値を子どもが感じられるよう、大人がその大切さを理解し、いきいきと過ごせる環境を整えていきます。

・目標指標【成果指標（市質問調査による分析）】

生活や学びの土台となる力には、基本的な生活習慣の確立、基本的な対人関係づくり、学習意欲などが含まれます。子どもに「生活や学びの土台となる力」が身に付いているかを把握するためには、市質問調査における次の設問によって測ります。

「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。」

なお、「生活や学びの土台となる力」については、「粘り強く学ぶ力」と同様に、教科における調査結果を活動指標とすることは適切ではありません。そのため、市質問調査の結果に、学級で見られる児童生徒の姿、家庭や地域で見られる子どもの姿を重ね合わせ、子どもの状況を多面的・多角的に捉えて分析します。

3 横須賀市学力向上推進プランと主な関連事業等

本プランでは、教育委員会で行っている事業等と本プランとの関連性を示しています。各事業等の充実が「豊かな学び」につながることを意識して、児童生徒と向き合っていたいただきたいと思います。